

第2 問題作成部会の見解

1 問題作成の方針

「韓国語」は、平成14年度に初めて大学入試センター試験（以下「センター試験」という。）の外国語科目に加えられたものであり、今回が第2回目であった。高等学校学習指導要領では「その他の外国語」として扱われ、目標及び内容について具体的な記述がない。したがって、平成14年度の出題は「ドイツ語」及び「フランス語」に関して高等学校学習指導要領に掲げられている内容に準拠し、一方では不十分ながら高等学校における韓国語教育の実態の把握に努め、出題することとした。

平成15年度は試験問題を作成するに当たって、

- (1) 平成13年度の調査研究委員会の検討内容と方針を基本的に遵守し、平成14年度の試験に準拠する。
- (2) 高等学校教科担当委員からの平成14年度試験に対する意見・評価を尊重する。
- (3) 予想される平均点について、他の外国語科目との著しい不均衡が生じないように努力すること。これを原則として、問題作成の方針を立てた。

具体的には、

- (1) 音声・表記・文法・語彙などの項目に分けて言語材料を収集し、市販教材や各種辞書を整理することによって、現在までに判明している使用実情を考慮して出題することにした。
- (2) 表記法については、韓国の文教部（日本の文部科学省に相当）で定めた正書法及び韓国国立国語研究院の『標準国語大辞典』に基づいた。韓国と北朝鮮で違いが見える部分については、日本の高等学校教育においては韓国の正書法が採用されているという現状にかんがみ、原則として韓国文教部方式に準拠して作題することとした。ただし、後者に準拠する教育を受けた受験者が著しく不利益をこうむらないように配慮した。

2 各問題の出題意図と解答結果

第1問 韓国語の発音・表記に関する基本的知識を問う問題である。

- (1) A：音変化に関する問題である。

問1 激音化の問題

問2 ㄴ挿入の問題

- (2) B：韓国語の漢字音を問う問題である。

問1 「清潔」の漢字音

問2 「恩恵」の漢字音

- (3) C：漢字音の異同を問う問題である。

問1 「常識、条件、状態」の第1文字目の漢字音の異同を問う。

問2 「個人、苦痛、考察」の第1文字目の漢字音の異同を問う。

韓国語において使用される文字であるハングルに対応する日本語の文字は仮名文字である。仮名文字は表記されたとおりに読めばコミュニケーションがほぼ成立するのに対し、音変化が豊富で綴り字通りに発音しないことが多い韓国語の発音規則の学習は、音声によるコミュニケーションに

とって極めて重要である。発音規則を習得しておけば、初めて耳にした発音であっても元の綴り字をある程度類推することが可能であり、前後の文脈と組み合わせることによってコミュニケーションの成立にとって大きな役割を果たす。

Aのようなハンゲルで表記された語の発音を問う問題ばかりでなく、B・Cの漢字音に関する問題も含めたのは、日本における韓国語学習者にとって韓国語の漢字音の知識を身に付けておくことが語彙を増大させる上できわめて重要であると判断したためである。出題の範囲はおおむね日本や韓国の教育漢字と同水準の基礎的な漢字を想定している。

Aの問2は文法的には比較的難度の高い問題であったが、基本的な単語であったせいか、よくできていた。漢字音に関しても、Cの問2を除いて比較的学習が行き届いていたようである。

第2問 文法・語彙についての知識を問う問題である。出題に際しては、基本的な文法・語彙の知識を問うとともに、学習者の間違いやすい点を取り上げた。A・B・Cに比べ、D・Eの問題の正答率が低かった。学習の際には、語彙の正確な理解や日本語との表現の違いについて注意が必要であろう。

(1) A 用言の活用についての知識を問う問題である。変則(変格)用言の活用、正則(正格)用言と変則用言の区別を中心に出题した。

問1 用言に語尾-면/-으면(Ⅱ-면)が続くときの形を問う問題。짓다 は変則用言、놀다は正則用言なので正解は①である。짓다 の形を間違え、②と答えた受験者が2割近くいた。

問2 用言に語尾-니까/-으니까(Ⅱ-니까)が続くときの形を問う問題。춥다, 춰다とも語幹末の終声がㄷであるが、춰다 は変則用言であるのに対し、춰다は正則用言である。したがって正解は④である。

問3 用言を過去連体形にする問題。밧다, 깨닫다とも語幹末の終声がㄷであるが、깨닫다は変則用言であるのに対し、밧다 は正則用言である。したがって、正解は④である。Aの問題の中で最も正答率が高かった。

(2) B 語彙及び表現を問う問題である。

問1 「～する前に」に相当する表現を選択させる問題。動詞の名詞形語尾-기 のあとに続くのは전에 だけなので、④が正解である。

問2 「～が～できない」に相当する表現を選択させる問題。他動詞が可能形になった場合日本語では助詞「を」が「が」に変わる(「本を読む」→「本が読める」)のに対し、韓国語の場合は助詞に変化がない点に注意する必要がある。従って③は逐語訳的に正しいように見えるが、①が正解である。

問3 前の話に対して「謝らなくていいですよ」と受けた会話だが、韓国語では미안해할 것 없다(申し訳なく思わなくていい)と表現する。文脈を的確に捉えられれば、미안하다 という初歩的な語彙から推測できると思われるが、1割程度の受験者が궁금하다(気になる)、신기하다(不思議だ)、심심하다(退屈だ)を選択した。

問4 「道が混む」に相当する連句を答えさせる問題。막히다(詰まる、ふさがる)が正解である。

問5 「あとで」に相当する語句を選択させる問題。韓国語の助詞(体言語尾)에서、으로、에는日本語の助詞「で」に対応する場合があるが、나중 には에 がついた形で用いられるので、

①が正解である。正答率はBの問題の中で最も高かった。

問6 -느니 (I-느니) という語尾は 차라리 (いっそ) という副詞と呼応する。-느니 の難易度が高かったせい、正答率は7割弱と、Bの問題の中で最も低かった。

(3) C 類似の語彙や表現を選択させる問題である。

問1 雨や雪などが空から地上に降ってくることを韓国語では 내리다 または 오다 と表現する。있습니다 を選んだ受験者がいたのは少々意外であった。

問2 漢数詞と固有数詞の対応を問う問題である。韓国語で多用されるにも関わらず固有数詞に対する馴染みが薄いせい、1割弱の受験者が誤答を選んだ。

問3 끊임없이 (絶えず) の類似の語彙は 계속해서 (続けて) である。끊임없이 の 없이 につられたのか、숨김없이 を選んだ受験者がいた。

問4 固有語動詞である 떨어놓다 を漢字語で表現すると 고백하다 となる。1割強の受験者が誤答を選んだ。

(4) D 韓国語による単語の定義を理解し、その説明に該当する単語を選ぶ問題である。定義を丁寧に読み取ることと、さまざまな語彙を正確に区別して知っていることが重要だ。第2問の中では、正答率がやや低かった。

問1 형의 아들 (兄の息子) は 조카 (甥) だが、意外にも 사촌や 손자 を選んだ受験者が、それぞれ1割前後いた。

問2 일을 하는 태도가 꾸준하고 성실하다 (仕事の態度が地道で誠実だ) というのを一言で表せば 부지런하다 (勤勉だ) となる。정직하다 (正直だ) はより一般的な言動に関する形容と言える。

問3 음식을 입에 넣고 이로 부수거나 자르다 (食べ物を口に入れて歯で砕いたり切る) は 씹다 (噛む) だが 삼키다 (飲み込む) を選んだ受験者が1割半程度いた。

(5) E 与えられた日本語の意味を韓国語で表現する問題である。

問1 日本語の「いらっしゃる」という語は、直前の助詞や文脈によって異なる意味になるため惑わされがちである。ここでは「～だ (～이다)」の敬語形なので、③の～이십니까 が正解だが「いる (있다)」の敬語形と誤解して①의 계십니까 を選んだ受験者が2割ほどいた。

問2 「折る」という日本語に対応する韓国語はいろいろありうるが、紙を折るのは 접다 であるという知識を問う問題。比較的よくできていた。

問3 日本語のやりもらい表現のうち「～に～してもらう」にあたる韓国語は直訳が不可能で、「～が～してくれる」と捕らえなおす必要がある。また、「～たい (と思う)」という希望表現も話し手自身の行動についての希望なら -고 싶다 だが、話し手以外の受験者や事物に対する希望なら -었으면 하다 とする必要がある。これらを総合して③を選択できた者は約半数であった。「～に」「～たい」に引きずられて 예게 と -고 싶다 が現れている②を選んだ者は3割以上に上った。

問4 닥치는 대로 (手当たり次第) という慣用句を知っているかどうか問われる問題だったが、「手」「当たる」の訳語から④を選んだ者が2割ほどいた。

第3問 日常生活によくあらわれるような対話文を材料に、対話の流れに素直に入れば、おのずと対話が完成できる問題とした。これにより、基礎的な語彙力、与えられた状況で適切な表現のやりと

りが何であるか、対話文を正しく読みとっているか、対話の流れを理解しているかを問うようにした。なお、選択肢は対話全体を理解してはじめて正しく解答できるようにすると同時に、日本語の直訳による理解では誤りとなる選択肢も配分した。

(1) A 短い対話を材料とし、対話の流れの理解力を見ることを意図した問題である。

問1 「かなり暑いほうです。」という受け答えを手掛かりに天候を尋ねる疑問文を選択させる初歩的な問題である。

問2 連体形語尾+지の表現と오래 되다 の組み合わせにより経過した期間を尋ねる問題である。

問3 ショッピングの時によく使われる表現の理解を総合的に問う問題である。잔돈, 깎다, 바꾸다, 여기 있다などの金銭の支払いに伴う語彙知識が前提となる。

問4 対話の流れを汲み取り、適切に拒絶する表現を選択させる問題である。時間の副詞이따의正確な理解が前提となる。

問5 健康を気遣う時に使われる表現を総合的に問う問題である。좀 어떻다, 약을 드시다/먹다, (약이) 듣다, (병이) 낫다などの語彙が要求される。

問6 部屋を予約する場面において、対話の流れの理解力を見る問題である。素直な気持ちで対話の流れに参加すれば、簡単に解ける問題である。부탁하다, 빈 방, 취소하다, 예약하다などの語彙が求められる。

問7 完了を表す表現を分析的に問う問題である。副詞다, 벌써, 못と動詞の過去形を組み合わせる表現の理解が必要である。

(2) B 11の文からなる対話文を材料に文脈の理解と日本語に相当する韓国語の表現を問う問題である。

問1 試験の可否に関する表現の理解を問う問題である。(시험에) 붙다/떨어지다の語彙が求められる。

問2 -기는 하다の理解を問うものである。日本語の直訳では答えられない問題であるため、正答率が約3割にとどまったものと考えられる。

(3) C 比較的長めの10の文からなる対話文を材料に、文脈の理解、日本語に相当する韓国語の表現に関する知識を問う問題である。

問1 日本語に相当する韓国語の表現を選ぶ問題である。両言語の敬語と「やりもらい」の表現形式に違いがある点に注意が必要である。この相違点により、正答率が5割台前半にとどまったものと考えられる。

問2 「같이 가기로 해 놓고 이렇게 돼서 정말 죄송합니다。」に暗示されている内容を読みとり、対話の流れが理解できているかを確かめると同時に、直示動詞(가다, 오다)の用法の知識を問う問題である。

第4問 ある程度の長さの平易な文章を読ませ、書き言葉の表現の理解と論理的な文章展開の理解能力を測ることを目的とした。課題文は、切手収集が題材となったエッセイで、一般的で親しみやすい内容だと思われる。第4問の得点率は約9割で、他の問題より得点率が高かった。

問1 前後の文脈を見て、対比を表す接続詞 한편 が最も適当であることを導く問題で、文章の読解能力と接続詞の意味の理解を問うた。文脈から、話題が転換していることがわかれば、正解に至ることが可能であろう。逆接を表す 하지만 を選択した者が多く、長文問題の中で

も最も正答率が低かった。

問2 指示詞を含む表現の意味内容を問う問題である。그 꿈 がその直前の「日本を訪問すること」を指していることがわかれば正答は容易に導き出せよう。

問3 文章の内容から、最も適切な擬態語を選ぶ問題である。韓国語では日本語以上に擬声擬態語が多様かつ豊富に用いられているので、基本的なものは押さえておきたい。この問いに対する解答はすぐに終わる2音節の擬態語ばかりを選択肢としたため、紛らわしく、やや正答率が低かった。擬声擬態語は用言との選択制限が厳しいので用言とセットにして学習してあれば容易に解答できる問題である。

問4 全体的な内容の理解を見る問題である。選択肢が日本語であったためか、正答率は高かった。正解は②と⑥である。②は原文の5～7行目の「일본에 대한 ~ 과언이 아닙니다。」の部分に対応する。⑥は原文の16～18行目の「저는 앞으로도 ~ 열어 둘 생각입니다。」の部分に対応する。

第5問 課題文は、日常の出来事を題材としたエッセイである。日常的な表現の理解と全体的な内容理解能力を測ることを目的とした。

各問題の正答率は、問1と問3で若干低かったものの、全体の得点率は約9割と、かなり高かった。文章の長さについては、昨年度と同様に検討の余地があるであろう。

問1 尊敬の対象となる人物に対して「御自身」の意を表す 당신 が正しく理解できているかを問う問題。ここでは②의 선생님이 당신 の指している対象である。

問2 혹시 (ひょっとして、もしかして) の意味を問う問題である。

問3 文脈から判断して適語を入れる問題である。すぐ後に続く部分に「‘まさか…!’ 我々は急いで死亡患者を確認してみたが、さいわいにもなかった」とあることから、正解が①の「お亡くなりになった」であると判断できる。돌아가시다 が 죽다 (死ぬ) の尊敬形であるが、このように尊敬形が全く異なる語彙には注意したい。

問4 ことわざの意味を問う問題。原文は「足のない言葉が千里を行く」であるが、これが②의 「うわさがうわさを呼ぶ」に相当する。

問5 全体的な内容の理解を見る問題。正解は③と⑤である。③は原文の7～8行目の「병실을 아무리 찾아봐도 선생님의 성함과 같은 이름은 하나도 없었다」の部分に対応する。⑤は原文の15～16行目の「사모님께서 둘째 아이를 낳으셔서 병원에 입원 중이라신다」の部分に対応する。

3 受験者の増大と難易度について

今回の受験者は169名であった。前年度は99名であったので、増加率70.7%増を記録している。一方、平均得点もわずかながら上昇し、170.96点となった。問題そのものの難易度は前年度よりも上げ、若干難しくなるよう作題しており、難易度自体が上がっていることは、高等学校側からの評価の中でも確認されている。

問題の難易度自体が上がっているにもかかわらず、平均得点が増している原因は、ただただ、民族学校出身者および帰国子女の受験者の増加に求められると考えられる。韓国語を日常的な使用言語としているこれらの受験者にとっては、センター試験の難易度の水準は非常に難しいものであるとは

いけないのである。

これに対し、日本の一般の高等学校における韓国語教育は、12単位を確保している高等学校が1校しかなく、大多数が6単位前後の学習時間しか確保できていないことを見ても明らかとおおり、高等学校の韓国語教育そのものがセンター試験の難易度の水準に達していない。つまり、現行の試験の難易度と、高等学校の教育の現実との乖離が、大きな問題として横たわっているといえよう。この乖離を高校教育の現実に合わせて解決を図ろうとするならば、問題は大幅に易しくせねばならなくなる。

しかしながら、センター試験の難易度と高校教育の現実との乖離という問題の解決は、どこまでも高校教育の充実という方向に求めるべきであり、センター試験の難易度を下げることに求めてはならない。「韓国語」の難易度は、現行のごとく、独仏中と肩を並べる水準を確保すべきであって、高校教育が貧困であるからといって、教育の現実に合わせて、大幅に易しくするのは本末転倒であろう。ちなみに、3年間で18単位の学習時間を確保している高等学校において、12単位の学習終了時点で平成14年度センター試験「韓国語」の問題を解いた生徒たちは120～130点程度の得点を示したそうである。

これを整理すれば、次のごとくである。民族学校出身者および帰国子女に焦点を合わせるなら、問題はより難しくせねばならない。日本の高校の出身者に焦点を合わせるなら、問題ははるかに易しくせねばならない。——こうした現実にあって、作題の水準は現行をおおむね維持しつつ、日本の高等学校における韓国語教育の充実についての具体的な方策を、たとえば文部科学省が中心となって推し進めるという方向が、原則的にして、最も好ましい方向であると思われる。